

議会広報広聴特別委員会 行政視察調査報告書

1 視 察 日 2024年7月29日（月）～30日（火）

2 視 察 先 調査事項
 ○兵庫県西脇市
 ・広報広聴活動について他
 ○徳島県勝浦町
 ・議会だよりの編集について他

3 視 察 者
 委 員 長 前 野 文 孝
 副 委 員 長 前 田 敦 司
 委 員 上 田 伴 子
 委 員 岡 本 昭 治
 委 員 竹 中 理
 委 員 西 田 真
 委 員 森 垣 康 平
 議会事務局 坂 本 英 津 子



西脇市にて意見交換



西脇市議場にて



勝浦町：住民のみで政策を議論する「OVER TALK」



勝浦町にて説明を受ける

日 時	2024 年 7 月 29 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
視 察 先	兵庫県西脇市
調査項目	広報広聴活動について
調査内容	1. 議会報告会（議会と語ろう会）に関して 2. 政策提言までの流れに関して 3. 高校生版議会報告会に関して 4. オンライン予算広聴会に関して 5. 議会だよりモニター制度に関して
所 感	1. 議会報告会（議会と語ろう会）は、ワークショップを含む 2 部制で開催。平成 22 年から 8 地区で開催していたが、平成 27 年から令和 4 年までは年 40 会場、2 年で 80 会場と数多く開催。小さな区から町内会、自治会単位で実施。令和 5 年度からは自治会以外にも、女性会、PTA、消防団、子育て世代等の各種団体を対象に加えて実施（通年開催、年 20 自治体）されている。運営方法は議長を除く 15 人の議員が 5 班に分かれ、各班 3 人の議員が 1 会場を担当（事務局は出席しない）。 2 部構成 第 1 部：定例会の内容を議員が報告 第 2 部：共通テーマについて、ワークショップ方式で実施 意見交換は 3 グループ程度に分かれ、ワークショップを務める。 グループごとに発表し、参加者内に出た意見を共有する。 2. 政策提言までの流れ 議会と語ろう会開催⇒班会議⇒常任委員会⇒市行政へ政策提言⇒行政で検討⇒実施予算を議会へ上程⇒議決⇒実施 【これまでの「議会と語ろう会」で提案し実現したこと】 ① 学童保育の預かりを 7 時 30 分に前倒し ② タクシー券を 500 円×3 枚利用可能にした ③ バス利用方法の周知、料金値下げ これまでの課題としては①開催に対して負担を感じる自治会の顕在化、②参加者の多くが自治会役員であり、おおむね男性や特定の世代で占められている。他の世代や団体、女性の声等を聴く必要がある - など、本市と同じ課題であると感じたが、そこからさらに発展し、ワークショップ形式にされたことにより課題を解決されている。非常に効果的であり、本市でも取り入れたいと感じた。 3. 高校生版議会報告会は、過去 10 回開催。令和 6 年 8 月 9 日に高校生議会開催。反応はとても好評で、18 歳選挙以降、高校からも探求的学習に取り入れている。 4. オンライン予算広聴会は、集まる方が固定され、本年度より実施しない。 今年は議会と語ろう会の中で、1 会場で実施する予定。 5. 議会だよりモニター制度では、コミュニケーションに最もこだわっている。 デザイン系のモニターから色アドバイスがあり、横書きで読みやすくなった。

日 時	2024 年 7 月 30 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
視 察 先	徳島県勝浦町
調査項目	議会だよりの編集について
調査内容	「議会だよりの編集」について 1. 予算・作成スケジュール及び配布方法に関して 2. 議会だよりのしからぬデザイン性に関して 3. 議会モニター制度に関して 「広聴活動」について 1. OVER TALK 勝浦アップデート等広聴活動に関して 2. その他
所 感	「議会だよりの編集」について 1. 年 3 回発行、議会の翌月末日、年間予算は 1,142,000 円、配布は新聞折り込み。町広報より 1 日でも早い折り込みを実施している。 2. 元地域おこし協力隊の WEB デザイナーに編集アドバイザーをお願いしている。また、広報誌で募ったモニターにもアドバイスをもらっている。平成 30 年に寄居町への視察研修を行い、編集アドバイザーを導入。 3. モニターにはアンケート協力と年 2 回議場でモニター会議を行い、町政や議会に対する意見をもらっている。 「広聴活動」について 1. OVER TALK 勝浦アップデート事業では、当初、対面方式の意見交換会を行っていたが、対立的な会議進行になるため、ワークショップ方式へ変更した。変更後は、議会と町民が対立せずに前向きの議論ができている。 2. 広報委員会でテーマや進行役、人選を考え実施している。各地域を回り、近年は地域団体等ともワークショップ方式で意見交換を行っている。 議会だより編集に関しては、とにかく町民にどうすれば読んでもらえるかを一番に考慮している。内容だけではなくテーマや表紙写真、紙面の配置（空白の美）まで、細かく配慮している点は大変参考になる。特に、編集アドバイザーの存在は大きいように感じた。 広聴に関しては、全地域を回るなど議会としての意識の高さには敬服した。広報委員会の取り組みというより、議会全体で取り組んでいる姿や議会活動と個人政治活動をしっかりと分けて活動している姿勢は、豊岡市議会としても大いに参考にすべきだと強く感じた。